

肝炎ウイルス陽性者への検査結果説明・専門医紹介を増加させるための工夫  
(眼科医へのアンケート調査)

研究分担者：是永 匡紹 国立国際医療研究センター 肝炎情報センター

**研究要旨：**非肝臓専門医が手術・検査時に肝炎ウイルス検査を行い、その検査結果を患者に説明すること、また陽性者を専門医へ紹介することは、肝炎ウイルスが経口薬で治療できる時代になり、更なる向上が求められる。これまでの先行研究では、内科以外の診療科、手術数が多く短期で退院する診療科でその紹介率が低いことが明らかになっている。  
本研究では、眼科医会の協力を得て、肝炎ウイルス検査に対するアンケート調査および学術講演会でウイルス肝炎の治療進歩・助成制度について説明し、その後再度のアンケート調査を行い、眼科医が肝炎ウイルス陽性者を紹介するためのボトルネックを抽出することを目的とする。

**A. 研究目的**

当研究班では、電子カルテアラートシステムを活用した院内肝炎ウイルス陽性者の follow up system 拡充を行い、院内で入院時・術前に指摘された陽性者を、専門医へ受診させることを推進してきた。

その一方で、アラートに反応しない医師も存在する。これらの医師は、研究班の調査より 肝炎ウイルス知識の認識度低下 手術・短期入院が多い診療科 若年医師、がどの病院でも挙げられている。

厚生労働省からは平成 26 年に肝炎ウイルス検査結果は、目的に関わらず、受検者に正しく認識できるように説明すること、更に健康局局長通知として平成 29 年に、検査を実施した医療機関（の担当医師）は、その結果を本人に伝え、陽性の場合には専門医療機関等に紹介するように記載されており、肝炎ウイルス検査を行う医師は陽性者に、紹介先を呈示しその記載をカルテに、これまで以上に注意して記載しなければならない。

本研究では、眼科医会の協力を得て、肝炎ウイルス検査に対するアンケート調査および学術講演会でウイルス肝炎の治療進歩・助成制度について説明し、その後再度のアンケート調査を行い、眼科医が肝炎ウイルス陽性者を紹介するためのボトルネックを抽出することを目的とする。

度アンケート調査を行い、眼科医が肝炎ウイルス陽性者を紹介するためのボトルネックを抽出することを目的とする。

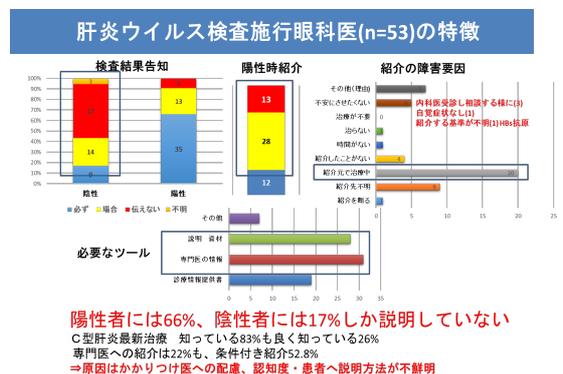
**B. 研究方法**

**検討 1：**年 1 回の眼科医会学術講演会 3 か月前にウイルス肝炎によるアンケート調査を行った。

**検討 2：**学術講演会 3 か月後に再度、講演会の output 調査の為に再アンケートを行った。

**C. 結果（返信率 25%）**

**検討 1**



(図 1 陽性者に対しては 66%説明するも陰性者には 17%しか説明しておらず、平成 23 年八橋班の報告と変化なし)

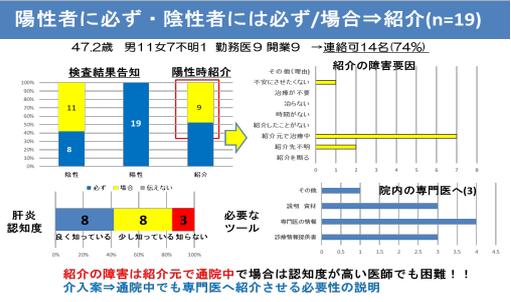
肝炎ウイルス検査陰性結果まで説明するか？

陽性・陰性に関わらず結果説明することが専門医へ紹介するきっかけ

	測定施設	必ず	場合	伝えない	p value
人数 (例)	53(100)	9(15)	14(28)	30(57)	N.S.
年代(平均)	48.6	47.5	48.6	49	N.S.
男性 (%)	34(64)	6(67)	8(57)	20(67)	N.S.
勤務医 (%)	21(40)	2(22)	8(57)	11(37)	N.S.
専門医：必ず紹介 (%)	10(19)	5(55)	5(36)	2(7)	p<0.05
専門医：場合で紹介 (%)	28(53)	3(33)	7(50)	18(60)	N.S.
専門医：紹介しない (%)	13(25)	1(11)	2(14)	10(33)	p<0.05
陽性時必ず伝える (%)	35(66)	8(89)	14(93)	14(47)	p<0.05
最新治療薬：良く知っている (%)	14(26)	3(33)	5(36)	6(26)	N.S.

最新知識情報認知に差はない

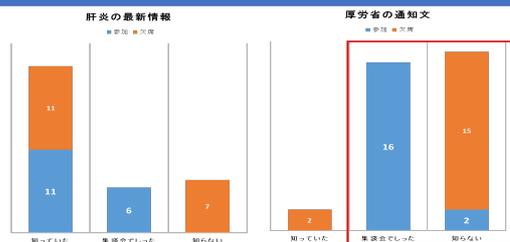
(図2 紹介に最も必要なのは、最新知識ではなく、結果を説明すること)



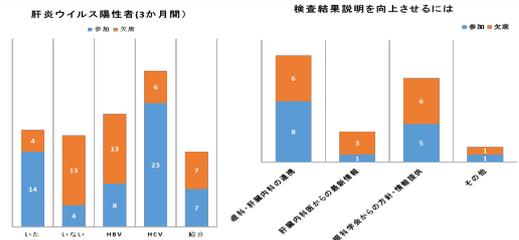
(図3 必ず紹介する医師でも紹介元で受診中であると専門医紹介は困難)

検討2

最新治療を知っているも厚労省からの通知文の認知度は低い



3か月間で50名の陽性者が受診→紹介は14名、肝炎ウイルス検査を説明向上には眼科学会要請が必須



(図4 講演会後も陽性者の20%が紹介に繋がった。その一方で、通知文の周知・眼科学会との連携が必要)

D. 考察

肝炎ウイルス検査の結果説明は未だに十分とは言えず、検査結果を説明する医師ほど紹介に繋がるのが明らかになった。

紹介に必要なツールとしては専門医情報や説明ツールが上位を占め、専門医リストが入るクリアファイルを作成した(下図)。その一方で、出来るだけ紹介を試みる医師でも、紹介元で診療されている場合は、紹介は困難であった。



講演会後、紹介を試みる医師もいたが、十分とは言えず、また20の医療機関で約50名の陽性者が存在したことより、その対策を急務である。更なる紹介率向上のためには眼科学会からの要請、眼科学会の感染対策担当と肝臓学会の連携が挙げられた。

E. 結論

肝炎ウイルスの最新知識だけでなく、厚労省からの通知文の周知も必要である。その為には、講演等の啓発以外にも、学会同志の連携により、眼科学会内での対応強化も必要であると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし